

「すっきりアフリック」

JICAセネガル事務所メールマガジン 第82号

2013年6月10日配信

目次

◆巻頭言

- ・セネガル事務所次長
柴田和直

◆活動紹介

- ・日本職業訓練校 CFPT
～無償資金協力の引渡し式実施
所員: 坪池明日香

◆われらが協力隊!

- ・MICRO-JARDINAVIの
普及と可能性
22-3次隊 野菜栽培隊員
土井 智代

◆～コラム・人紹介～

- ・セネガル事務所 広報担当
マリ・ジャクリーヌ・ジュフ

◆ひといき

- ・ダカール・マラソン

◆事務所より

- ・事務所の予定
- ・人の動き

◆『巻頭言』 スマホと TICAD

セネガル事務所次長 柴田和直

お世話になっております。JICA 事務所の柴田です。私事ですが携帯電話を最近買い換えました。皆さんはスマートホン（スマホ）にはお詳しいですか？世界のスマホ市場はアップルの 아이폰とサムスンのギャラクシーの寡占状態。日本のソニーは、今年初めから高性能の戦略機種エクスペリアZを投入し、第三の地位を獲得しようと努力しています。

そんな中、セネガルでの日本製品販売に少しでも貢献できたらと、何軒も店を回ってソニーのスマホを探したのですが・・・残念、結局サムスンを買ってしまいました。仕事と私用を兼用できるダブルSIMの機種が欲しかったのですが、手頃な機能と性能が揃ったものは結局サムスンしか無く、ソニーの対抗機種は店を5軒回っても見つからなかったのです。

若年層が人口の半数以上を占めるアフリカで、自動車以外の日本メーカーはどんどん忘れ去られてしまうのでは？と悔しい思いをしていたところ、嬉しいニュースが！ソニーが5月中旬に、アフリカで2015年までに家電14億ドルを売り上げるという事業計画を発表。モロッコ、ガーナ、ナイジェリア、アンゴラに地域事業拠点を立ちあげ、アフリカ全体に正規サービスセンターを今年67か所設置し、来年3月までに87か所に増やすそうです。

このような日本企業の対アフリカ貿易投資の促進と言えば、6月3日に閉幕した「第5回アフリカ開発会議（TICADV）」のメインテーマです。アフリカ51カ国が参加したこの会議、やや強引な話題の転換ですが、日本政府が公約した「TICADVの主な支援策」の中で、セネガルを初めとする西アフリカ諸国の協力事業に関係深いポイントを概観してみましよう。

まず「基本方針」。民間の貿易投資を促進して成長を後押しし、また人間の安全保障（農業、保健、教育、平和と安定等）を推進するために、今後5年間でODA約1.4兆円（140億ドル）を含む最大約3.2兆円（320億ドル）の官民の取組みを行うとしています。「最大」とはどういう意味だろうと思いつつ、1.4兆円の内訳はぜひ確認しておきたいですね。

テーマ別には、まず「I. 経済成長の促進（民間セクター、貿易投資、資源）」への支援策。中でもアフリカ開発銀行との協調融資による5億ドルの民間セクター支援や、10カ国への投資アドバイザー派遣などがセネガルを初めとして関係してきそうです。

続いて「II. インフラ整備・能力強化の促進（インフラ、人材育成、科学技術、観光）」では、インフラ整備に約6,500億円（65億ドル）の公的資金投入、5大成長回廊整備支援や、都市計画／交通網／インフラ整備のための戦略的マスタープラン10カ所策定などを表明。ダカール首都圏開発を含め、西アフリカのインフラ整備を推進したいところです。

人材育成については「産業人材3万人育成」を表明。そして「TICAD産業人材育成センター」を10カ所（25カ国対象）に設立するとしており、CFPTの職業訓練などの蓄積を持つセネガルでの西アフリカ産業人材育成拠点の立上げが急務となるでしょう。また「ABEイニシアティブ」（1000人の留学と日本企業でのインターン受入）で、優秀な若手人材をどんどん送り込みたいところです。観光分野でもフェア開催や700人の人材育成を打ち出しており、最近支援を始めたセネガルそしてカーボヴェルデなどに観光客を呼び込みたいですね。

次に農業。「III. 農業従事者を成長の主人公に（農業、食料・栄養安全保障）」では、2018年までにサブサハラアフリカの米生産を2800万トンに増加する支援を表明。セネガルでの従来からの灌漑稲作や、天水稲作への支援もこの方針で継続していくことになります。

社会セクターの「V. 万人が成長の恩恵を受ける成長の促進（教育・ジェンダー、保健、水・衛生）」では、まず教育分野で 2000 万人の子供に質の高い教育環境を提供と発表し、西アフリカでも展開されている理数科教育や「みんなの学校」を拡充することになっています。

保健分野では 500 億円（5 億ドル）の支援と人材 12 万人育成を宣言。西アフリカ保健人材育成の拠点セネガルを活かさない手はありません。水衛生分野の「1000 万人の安全な水へのアクセスと衛生改善」にも水管理委員会運営や村落衛生の蓄積で貢献したいところです。

「VI. 平和と安定、民主主義、グッドガバナンスの定着」では、サヘル地域向け開発・人道支援 1000 億円（10 億ドル）で地域の安定化への貢献などを表明。マリの情勢が安定してきたら、当事務所はこの面でも忙しくなりそうです。

なお、当事務所が担当する 7 カ国からは、セネガルのサル大統領、マリのトラオレ暫定大統領、ギニアのコンデ大統領、ガンビアのジャメ大統領、カーボヴェルデのネベス首相の 5 人の国家元首と、モーリタニアの外務・協力大臣が出席しました（残念ながらギニアビサウは参加せず）。首脳会談では、カーボヴェルデへの日本の技術を利用した上水道整備への円借款や、セネガルへのノンプロジェクト無償の決定が発表されました。

このように今後一層の積極的事業展開を期待させた TICADV。かつてなく高まった日本企業の投資意欲が最も遠い西アフリカの経済開発にもつながり、2018 年 TICADVI の時は、所員が皆日本のメーカーのスマホを使っていることを目標に（？）仕事していきたいと思います。

◆活動紹介セネガル・日本職業訓練校（CFPT）

～無償資金協力の引渡し式実施～ 所員：坪池明日香

爽やかな春の風が吹く一方で夏の到来を思わせる日差しの中、5月28日（火）にセネガル・日本職業訓練校における無償資金協力「職業訓練機能強化計画」の引渡し式が実施されました。当日の夜に、TICAD-5に参加するためにセネガルを出発する大統領が出席し、「ここCFPTを訪れずに日本を訪問できないと考えていた」と、大統領スピーチの冒頭で述べられ、CFPTがセネガルと日本の協力のシンボルであることが伺えました。

CFPTは1984年に日本の協力により設立された職業訓練校で、約30年にわたり、産業界のニーズに応える人材を育成すべく、施設や機材の整備のみならず、専門家派遣や研修員の受入れを通じて人材育成に日本は貢献してきました。中でも特徴的なのは、日本の協力は指導員の育成であり、直接生徒を指導するのではなく、生徒を指導する指導員を育成するという点です。他のドナーが直接教えて去ってしまう一方で、日本は指導するための体制を整備することに徹底して取り組んできました。

今回の無償資金協力を通じて整備された施設・機材は、2012年10月開講の新たな2コース、「建築設備保守科」と「重機保守科」の2学科に必要なものです。また、平行して2011年10月より、同2科のカリキュラム策定及び指導員の育成にかかる技術協力プロジェクトが実施されています。このプロジェクトのリーダーである世取山専門家もセレモニーに参加しました。産業界のニーズを見通し、必要とされる人材を輩出するCFPTのアプローチは、セネガルの民間企業だけでなく、周辺国の産業界からも大きな期待が寄せられています。

さて、大統領出席という貴重な機会であると共に、実際にCFPTの施設を見て理解を深めてもらうという大命題を与えられたCFPTのゲイ校長は、式典の前に大統領を施設案内するという大胆なプログラムを用意しました。校門にて主賓らが大統領を迎え、そのままCFPT施設内をくまなく案内。各科の指導員の先生から直接、機材の内容や指導科目に対する説明を受けた大統領は実際の研修現場を目にしたことにより、理解が深まったものと思われます。

全体の視察が終わるといよいよセレモニーの時間です。銘钣序幕及び記帳が終わり、CFPTゲイ校長によるスピーチ、在セネガル日本大使によるスピーチ、大統領によるスピーチと、それぞれの立場からCFPTの活動に対する賛辞及び日本の協力に対する謝辞が述べられました。大統領府官房長、外務

大臣、職業訓練大臣、法務大臣、ダカール市ヨフ地区長、在セネガルコンゴ民主共和国大使、在セネガル日本大使、JICA セネガル事務所長と錚々たるメンバーが出席する中で、華々しく式が執り行われました。

そして、今回の重機保守科の設立及び指導員育成、学生指導に欠かせない民間の力がコマツさんです。ダカールにあるコマツ研修センターでは、2012年度に重機保守科の指導員5名が指導を受け、2013年3月には重機保守科の学生に対する1日ワークショップを実施していただきました。このように、日本の政府協力だけでなく民間による協力が今日のCFPTを支えています。コマツダカールの所長も、研修センターの主任指導員と共に今回の引渡し式に出席されました。

30年にわたる日本の協力が今も変わらず続けられているのは、産業界で必要とされる人材を輩出し、セネガルのみならず西アフリカの産業の基盤である技術者を育成している事実と、大統領、ゲイ校長をはじめとするセネガルの多くの人々が日本の技術協力に対する高い評価によるものであると共に、政府と民間の力が融合した協力であるからではないか、と感じるセレモニーでした。



写真左上：大統領・深田大使による序幕



写真右上：重機保守科教員・学生と共に

◆われらが協力隊！

～MICRO-JARDINAVI の普及と可能性～

隊次：22-3 次隊

職種：野菜栽培

任地：チャメヌ 土井智代



← SDDRにて研修開

私の任地チャメヌ村は首都ダカールより北東に 238km 向かった所に位置しています。チャメヌ村を含む周辺村の大半の村人は、家畜や雨季の落花生・ニャベ(豆)・ミレットの栽培によって生計を立てています。雨季栽培は天候に左右されるため、安定した現金収入を得ることはとても困難であるのが現状です。その中で私は日々、野菜栽培を通しての収入創出を目指して実践と模索を繰り返しています。

活動の中の一つで、今軌道にのっているのが MICRO-JARDINAVI の普及です。MICRO-JARDINAVI (= MICRO JARDIN + AVICULTURE) とは、小規模家庭菜園と養鶏を組み合わせた家畜小屋です。このモデルは配属先であるルーガ県農村開発事務所(SDDR)も推奨しているもので、養鶏(肉鶏)による定期的な現金収入に加え、野菜栽培を同時に行なうことで、栄養改善も期待できるというものです。

昨年 10 月に現地業務費を活用し、SDDR、同配属先の隊員と協力して実際に設置する村の村人を対象に MICRO-JARDINAVI の研修を行いました。その後、各隊員は各設置村に赴き技術的なサポートを行っています。現在では、養鶏は 4 ターン目を終えた村もあり、各村ではそれぞれ異なった結果が出ているようです。私が実際に設置した村はとても小さな村で、肉鶏はとても高価な食べ物とされていて、普段は食さないため販売は困難であったのですが、7km 離れたチャメヌ村では肉鶏の需要があり、通常でも販売が可能であることが分かりました。セネガルの肉鶏は平均 45 日で出荷可能で、村では 1 羽 2,500FCFA (¥1≒5FCFA) で販売する事が出来ます。1 つの MICRO-JARDINAVI で 20 羽が飼育可能で、上手くいけば 1 ターン毎に 14,800FCFA の利益を生みだすことができます。回転も早いいためコンスタントに続けていくことで定期的な現金収入が見込めると言えます。

私が実際に設置した村では、家の敷地内に設置したことで、飼育管理が容易となり、女性も家事・育児の合間を利用して行なっていました。また、鶏小屋の上ではレタス栽培を行い自家消費するこ



〈設置した中学校〉

ができました。MICRO-JARDINAVI のモデルは、水耕栽培の様なもので、落花生殻・もみ殻・粘土を混ぜたものを土台とし、液肥を混ぜた水を灌水します。テーブルの中は、底 2cm 程度の水が常に溜まっている状態で、余分な水は排水されます。

排水された水は再び使用することができるため、節水栽培が可能となります。この村では、各家庭に水道はなく、家庭用水は給水塔まで汲みに行かなければなりません。そのため、家庭菜園を行った際、途中で枯れる・家畜の食害に合うということが多々あり、なかなか収穫まで漕ぎつけられませんでした。この栽培法を取り入れたことで彼らの負担が減り、レタス栽培を達成することができました。

MICRO-JARDINAVI を学校に設置した所もあり、生徒が飼育管理を行う、授業に取り入れるなど、教育的な面においても可能性が見えました。また、研修に参加してくれた先生もあり、生徒たちの日々のサポートも積極的に行なってくれているようです。

ルーガ市内では、MICRO-JARDINAVI に興味を持った住民や学校などから声がかかり、配属先の農業技官が現場に赴き、家畜小屋作製・技術移転を行う機会が増えました。

MICRO-JARDINAVI は一つの小規模家庭菜園モデルとして農村に導入されましたが、養鶏を始める人や鶏糞を家庭菜園に利用するなど様々な形で広がりを見せています。

一方、まだまだ改善していかなければならない点もいくつかあります。例えば、このモデルは液肥を利用していますが、液肥は首都ダカールまで購入しに行かなければなりません。もし鶏糞を家庭菜園に利用することが可能となれば、無駄なく資源を活かすことができます。そのためには、小屋の耐久性や栽培用の土に何を利用するか、土の深さなどを考慮する必要があります。どのような土壌が良いのか現在実験中です。



〈生物の授業に取り入れる〉

その他に、設置村で僅かながらも得られた収入に関して、活動資金管理のサポートも行っています。村人は現金が手元にあればすぐに使ってしまう事が多々ありますので、活動が継続していくように彼らをサポートしています。

今後も、地域に根ざした形を目指し改善策に努めていきたいと思っています。

◆コラム ～セネガル事務所ナショナルスタッフ広報担当～

Marie Jaqueline DIOUF: マリ・ジャクリーヌ・ジュフさん

～ セネガル事務所の広報担当をナショナルスタッフとして一人で担当し、昨年度の報道実績を前年 200 件から 700 件へと一気に伸ばし、JICA 活動の広報に大いに貢献しているジャクリーヌさん。最近は大極拳を始め、アジアにも興味も持ち始めたそうです！そんなジャクリーヌさんの思いを聞いてみましょう！



JICAセネガル事務所で広報を担当していますマリー・ジャクリーヌ・ジュフです。2010年10月よりJICAで勤務していますが、情熱を掻き立てるこの世界で働ける事を嬉しく思います。私の仕事は研修や会議、イベントなどをはじめとする日本の協力活動が、より多くの人目に触れ理解してもらえよう、発信していくことです。また各セクター・兼轄国で実施中の技術協力、無償・有償資金プロジェクトについてもパンフレット作成やメディアへの発信を通じて広報として協力しています。多くの国・人々に、JICAの活動を知っていただけるよう、セネガル事務所ウェブサイトも随時更新していきたいと思っておりますので（仏語）、是非ご覧ください！

※JICAセネガル仏語ホームページ：<http://www.jica.go.jp/senegal/french/office/index.html>

◆ひといき

～第 12 回 ダカール・マラソン～

2013年5月18日にセネガル陸上連盟主催の第12回ダカール・マラソンが実施され、今大会の「すべての子供を学校に」をテーマに5km、10km、21kmのコースを、総勢約1500名以上の参加者が子供たちの為に走りました。基礎教育や母子保健を重点分野としているJICAセネガル事務所も今回初めて、協賛パートナーとして参加し、ランナーとしても協力隊員や加藤所長はじめセネガル事務所関係者が10名以上参加しました。来年は2月にフルマラソンが予定されています！

※ダカール・マラソン：www.dakarmarathon.org/en/about/dakar-marathon

◆事務所より

■ ■ お知らせ ■ ■

◆人の動き

着任：及川企画調査員(広域：保健) (6/11)

CFPT 短期専門家(内線技術) (6/5)

離任：隊員 12 名帰国(6/24、6/25)

(23-1 次隊 9 名、22-4 次隊振替 1 名、22-4 次隊延長 1 名、24-9 次隊 短期隊員 1 名)

PREMST2 短期専門家(視聴覚教材) (6/22)

◆所長・次長の出張不在

・加藤所長 (6/2～6/4)

・岩本次長 (6/3～6/4、6/10～13)

◆本邦行事等

・TICADV (6/1～6/3)

◆事務所内行事/会議等

・帰国隊員(12名)の帰国報告会(6/24)

◆研修・調査団

・漁業調査船 F/U コンサルタント派遣(5/26～7/17)

・保健人材管理ネットワーク年次会合(6/3-6/7：ロメ)

・CODEVAL 中間評価(6/16～7/6)

・保健人材養成校広域セミナー(6/17～19：ダカール)

・仏語圏 JICA 事務所保健担当者会議(6/20～6/21)

・AFD-JICA の連携フォローアップ(6/22～6/24(予定))

◆「すっかりアフリック」がセネガル事務所ホームページ内でもご覧いただけます！

<http://www.jica.go.jp/senegal/office/index.html>

◆配信希望募集

セネガル発『すっかりアフリック』(月刊)の配信希望を承ります。ご希望の方はその旨「JICA セネガル事務所広報タスク宛」に下記お問合せ先メールアドレスまでお知らせください。

◆記事投稿歓迎

記事の投稿を広く歓迎いたします(ただし掲載可否判断、校正等を編集部にてさせて頂くことがありますのでご了承ください)。皆さまからの興味深い記事をお待ちいたしております。

『すっかりアフリック(Suxali Afrique)』はウォロフ語で『アフリカの発展』を意味します。

発行元：独立行政法人 国際協力機構（JICA） セネガル事務所

お問合せ：sn_oso_rep@jica.go.jp

JICA セネガル事務所 URL <http://www.jica.go.jp/senegal/>
